

「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」 完了報告書【推進地域：徳島県】

1. 現状と課題

本県には、「あわ文化4大モチーフ」といわれる徳島を代表する「阿波藍」、「阿波人形浄瑠璃」、「阿波おどり」、「ベートーヴェン第九」といった文化芸術、「四国八十八箇所霊場と遍路道」等の貴重な史跡や文化遺産が多数あり、このような郷土の文化芸術や文化遺産を体験的に学ぶ機会を充実させることにより、豊かな感性や情操を養うとともに、伝統文化を継承・創造していく力を育成することを目指している。

そこで、平成25年度より、「ふるさと発見！あわっ子文化大使育成プロジェクト」を立ち上げ、発達段階に応じて行う「あわ文化教育」のねらいや目指す児童生徒像、取組に向けての方策などを明確にした文化教育の指針を具体的に示すとともに、あわ文化の学習資料等を作成し、学校における活用を進めてきた。

また、ふるさと徳島の伝統・文化を担い、誇りを持って県内外で発信し続ける「あわっ子文化大使」の育成に向けて取り組んできた。その過程において、平成28年度からは、当初の事業を「あわっ子文化大使発信力育成プロジェクト」に組み替え、「あわ文化教育」の普及と「あわっ子文化大使」の情報発信力の強化に視点を当ててきた。その結果、県立中学校3校よりスタートした本事業は、平成28年度からは、対象を県内全ての公立中学校83校に拡大し「あわ文化教育」が行われている。

令和元年度は、各校での「あわ文化教育」の具体的な実践例を共有し、自校の実践に活かすことを目的として「あわ文化教育リーダー研修」において実践報告の時間を設けるとともに、演習を実施した。また、「あわっ子文化大使」と高校生サポーターが企画・運営を務める「あわっ子シンポジウム」や「あわ歴史・文化体験モニターツアー」を実施することで情報発信力の向上を目指すとともに、大学生や社会人となった「あわっ子文化大使サポーター」が自らの経験を活かし、「あわ文化」の継承・発信を行うことができる機会の一つとした。

このような取組の中で、今後の課題と考えられるのは、次の2点である。1点目は「あわ文化教育」に取り組む際の各学校の推進体制の更なる強化である。年度当初に実施している「あわ文化教育リーダー研修」では、実施後のアンケートで、多くの教員から「あわ文化教育」に対する前向きな意見を聞くことが出来た。また、各校で地域や学校の特性を踏まえた取組がなされている。しかしながら依然として、学校全体で共通理解を行い、協力体制を整えることに課題を感じている教員や各校で取り組みやすい「あわ文化教育」の実践モデルの提示を希望している教員も多いということである。もう1点は、「あわっ子文化大使サポーター」が「あわっ子文化大使」としての活動を継続することで培った経験を生かせる場をより充実させ、将来を見据えた人材の育成を図っていくことである。このことを踏まえ、今後も「あわ文化」の継承と発信について具体的な施策を実践していきたい。

2. 実施内容

(1) 計画の概要

本事業においては、次のことを計画・実施した。

○「あわっ子文化大使」発信力育成プロジェクト

目的：徳島の伝統文化の継承と新たな創造を担い、誇りを持って国内外に発信し続ける人材の育成。

・「あわっ子文化大使」の発信力の育成や「あわっ子文化大使サポーター」の活躍の場の創出に向け、表現力やコミュニケーション能力の向上研修等を行うとともに、取組の過程をまとめ、「あわ文化教育」の実践モデルとする。

また、県内の各中学校への「あわ文化教育」の浸透を図るため、あわ文化教育リーダーの育成に努め、「あわ文化教育」を推奨することで、本県のあわ文化の振興に資することとする。

(2) 具体的な実施内容

類型Ⅰ	類型Ⅱ	類型Ⅲ
	○	○

【具体的内容について】

1 「あわっ子文化大使」活躍事業

- ・「あわっ子文化大使」が世界に誇る徳島の文化を紹介するための観光ツアーを企画。前年度のモニターツアーにおける参加者の意見をもとに、改善点を検討しながら、ツアーコースを完成させ、モニターを募って実施。ガイド原稿や資料を作成し当日のツアーガイドを務めた。
- ・観光ツアー、サポーターと共に行うシンポジウムの様子を研修や広報用の映像として作成。

2 Beyond the「あわっ子文化大使」事業

- ・「あわっ子文化大使」と「あわっ子文化大使サポーター」を対象に、表現力やコミュニケーション能力等のスキルアップのための研修会を体験ツアーと併せて実施。発声方法から始まり、よりよいコミュニケーションの方法・ガイド原稿へのアドバイス等、講師の方より指導をいただいた。
- ・「あわっ子文化大使」と「高校生サポーター」、「大学生サポーター」が集い、今後の「あわ文化」の発信について、シンポジウムを開催。鳴門教育大学教授による「あわ文化」に関する講演、「あわっ子文化大使」と「高校生サポーター」による活動発表、「あわっ子文化大使」、「高校生・大学生サポーター」がパネリストを務めるパネルディスカッションを開催。

3 「あわ文化教育」の実施（あわ文化検定事業）

- ・「あわ文化テキストブック」や地域教材を活用し県内全公立中学校で「あわ文化教育」を実施。テキストブックの20の項目を「総合的な学習の時間」「教科指導」「特別活動・学活」「家庭学習」に位置付け実施。
- ・あわ文化を次世代に伝承するとともに、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信するための知識・理解が得られているかどうかを確認することを目的として、公立中学校に在籍する1・2年生を対象に実施。
- ・各学校での「あわ文化教育」の指導方法の共有と指導方法の工夫改善を図るため、中学校の教員を対象に「あわ文化教育リーダー研修」を実施。各学校の実態に適したモデルを効果的に活用できるよう、実践報告と班に分かれての演習・演習後の報告の場を設定。研修報告をホームページにアップ。

（3）成果物の概要

- ・「あわっ子文化大使活躍事業」実践報告書
- ・「シンポジウム、あわ歴史・文化体験モニターツアー」の広報動画
- ・「あわ文化教育リーダー研修」報告書

（4）成果の検証

1 「あわ文化教育リーダー研修」に参加した教員のアンケート調査

※詳細は別添「あわ文化教育リーダー研修 報告書」に記載

①今回の研修講座は、あなたの資質・能力の向上に役立ちますか。					
大いに役立つ	概ね役立つ	あまり役立たない	役立たない	無回答	計
21人	51人	0人	0人	3人	75人
28.0%	68.0%	0.0%	0.0%	4.0%	
②役立つと感じた項目（複数回答可）					
カリキュラムマネジメント力			授業構想力		
49人			44人		
65.3%			58.7%		
③研修講座全体の内容や進め方についてどのように感じましたか。					
大変良かった	概ね良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
22人	53人	0人	0人	0人	75人
29.3%	70.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
④講義の内容や進め方についてどのように感じましたか。					
大変良かった	概ね良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
28人	47人	0人	0人	0人	75人
37.3%	62.7%	0.0%	0.0%	0.0%	

⑤演習の内容や進め方についてどのように感じましたか。

大変良かった	概ね良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
28人	47人	0人	0人	0人	75人
37.3%	62.7%	0.0%	0.0%	0.0%	

⑥今回の研修講座は、今後の教育実践に生かれますか。

大いに生かせる	概ね生かせる	あまり生かせない	生かせない	無回答	計
25人	50人	0人	0人	0人	75人
33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	

アンケート結果からみる成果

質問の全ての項目において「役に立った」「良かった」との回答が90%を越えており研修の内容が、あわ文化教育推進教員の今後の教育実践に生かせるものになっていると考える。

「あわ文化教育」の目標と位置付けについて、具体的な事例を基に各自が考えることで、理解を深めることができた。また、県下各中学校の教員で情報共有を行うことにより、地域の実態や各校の教育活動全体を踏まえながらカリキュラムを作成していくことについて、再認識することができたと感じる。さらに、各教員のこれまでの実践や経験を基に活発な話し合いが行われたことにより、今後、授業構想を行っていく上で、非常に参考になったと考えられる。

2 「あわっ子文化大使活躍事業」や「Beyond the あわっ子文化大使事業」に参加した「あわっ子文化大使」や「あわっ子文化大使サポーター」の感想

① 「あわっ子シンポジウム」の感想（抜粋）

（あわっ子文化大使）

- ・最初の講演で改めて「あわ文化」について学ぶことができた。正直「あわ文化教育」の理念などは考えたことがなかったので、今回の講演を聞くことができて良かった。「ふるさと徳島」という言葉は、私にはしっくりくる言葉だったけれど、改めて「ふるさと」の意味を理解することができた。パネルディスカッションでは、パネリストの皆さんの話を聞き「あわ文化」の広め方や、工夫できることに気づくことができた。
- ・パネルディスカッションで先輩サポーターの方からアドバイスをたくさんいただけたので良かった。アドバイスを生かして課題をのりこえていきたい。

（高校生サポーター）

- ・文化というのは難しい言葉だが、意外と身近なところにたくさんあるのだなと思った。「あわっ子文化大使」としての経験を生かして、これから出会う人たちに自分から「あわ文化」の魅力を紹介していきたい。
- ・パネルディスカッションで気づいたのは「あわ文化」を押しつけないということだ。「あわっ子文化大使」の活動の目的は最終的に県内外への「あわ文化」の発信であるが、その前に魅力を伝えたい対象に振り向いてもらえる「作戦」を十分に練る必要があると感じた。そこで、今後はこの「作戦」について、「あわっ子文化大使」と「高校生・社会人・大学生サポーター」が集まりディスカッションするのも有効な手段だと思う。

(大学生サポーター)

- ・現在の「あわっ子文化大使」の活動の幅広さに驚いた。活動の撮影収録やYouTubeを使った配信などグローバルに活動しているので、これからもどのように変化していくか楽しみだ。
- ・今の「あわっ子文化大使」の活動が進化していて良いと思った。身近なところから分かりやすく「あわ文化」を発信できれば良いと思う。

② 「あわ歴史・文化体験モニターツアー」の感想（抜粋）

(あわっ子文化大使)

- ・今回は一般の人たちも一緒に、私たち文化大使はガイド役での参加であったが、自分たちも十分に楽しむことができた。一般の参加者も楽しんでくれたようで嬉しかった。もっと多くの人に「あわ文化」をPRしていきたいと思った。
- ・大きな声で話すこと、説明内容が伝わるよう、大切な部分は特にゆっくりと話すこと、声調を明るくして表情も笑顔でガイドすることを心掛けた。ガイドをするときに緊張したけれどみなさんを案内できて良かった。

(高校生サポーター)

- ・ガイド原稿がしっかりしていて、分かりやすかった。一度事前にガイド練習として行っていたからか、ガイドをするときもみんな落ち着いていたと思う。
- ・今回のツアーのコンテンツは全て初めてではなかったが、どれも色あせない新鮮さがあり、とても楽しめた。中学生たちは、これからも様々な経験を積み、人前で堂々とあわ文化を語れる人になってほしい。

感想からみる成果

「あわっ子文化大使」と「高校生サポーター」「大学生サポーター」がそれぞれの立場で「あわ文化」の発信について前向きに取り組もうとしている姿勢を見ることができた。

また、「あわっ子文化大使」と先輩サポーターが集う場を設定し、課題について共に考えることにより、今後の活動を進めていく上での共通理解を図ることができた。

3 「あわ文化教育」を実施した際の教員の取組、生徒の変容等

- ・学年団で学習計画と領域の確認（共通理解）をし、領域毎に教員の役割分担を決定。
- ・ローテーション学習を行うことで、複数の教員が関わることができ、生徒が新鮮な雰囲気の中で授業に取り組むことができた。
- ・各分野の担当教員を決めて、取り組んだことにより、その分野の授業研究をしっかりと行うことができた。
- ・スライドや映像を取り入れることで可視化でき、楽しく分かりやすい授業を展開することができた。
- ・生徒が徳島や地元の文化・文化財に興味を持つようになった。
- ・生徒が家庭に帰り、家族で「あわ文化」について話し合うきっかけになった。

実践報告からみる成果

「あわ文化」への取組について学校内で共通理解を図り、推進体制を整えることで、各教員が指導しやすい環境が整えられ、生徒の意欲の高まりも見られる。

4 「あわ文化検定」の受検率及び合格率の推移

	中学校数	受検校数	受検率	生徒数	受検者数	受検率	合格者数	合格率
平成25年度	86校	3校	—	13,296人	257人	1.9%	118人	45.9%
平成26年度	85校	13校	—	13,251人	612人	4.6%	286人	46.7%
平成27年度	85校	34校	40.0%	12,860人	958人	7.4%	574人	59.9%
平成28年度	83校	46校	55.4%	12,378人	710人	5.7%	322人	45.4%
平成29年度	83校	43校	51.8%	12,069人	882人	7.3%	611人	69.3%
平成30年度	82校	36校	43.9%	11,591人	987人	8.5%	664人	67.3%
令和元年度	82校	38校	46.3%	11,389人	784人	6.9%	419人	53.4%

検定実施状況について

本年度は、初めて「あわ文化検定」に参加した学校が4校増加したものの、学校の行事等の関係により昨年度までの参加校で、本年度参加できなかった学校があったため、全体としては、学校の受検率に大きな変化は見られなかった。また、昨年、一昨年と伸びていた生徒の受検者数が本年度減少しており、今後の課題である。合格率の変化については、検定問題の内容の難易度が関係していると考えられる。

(5) 実施スケジュール

令和元年度スケジュール

1 「あわっ子文化大使」活躍事業

平成29年度、30年度に認定した「あわっ子文化大使」が「シンポジウム」「あわ歴史・文化体験ツアー」を企画・実施

契約開始日以降

- 7月 シンポジウム資料作成、ツアーコース決定
- 7月 アナウンス研修、検証ツアーの実施と修正
- 8月 シンポジウムの実施
- 9月 モニターツアー実施の際の事前打ち合わせ（2回）
- 10月 モニターツアーの実施
- 2月 広報動画の完成

2 Beyond the 「あわっ子文化大使」事業

- 7月 シンポジウム資料作成、ツアーコース決定
- 7月 アナウンス研修、検証ツアーの実施と修正
- 8月 シンポジウムの実施

3 「あわ文化教育」の実施（あわ文化検定事業）

通年 各中学校で「あわ文化教育」の実施

- 9月 検定問題の作成・検討
総合教育センターにWeb版問題作成依頼
- 10月 県内82公立中学校に検定要項送付，検定受検及び「あわっ子文化大使」希望者募集
- 11月 検定受検希望者が在籍する中学校に検定実施要項等の送付
- 1月 「あわ文化検定」の実施
- 2月 「あわ文化検定」の検定結果，「あわっ子文化大使」の認定結果の通知
- 3月 「あわっ子文化大使」認定証授与式の開催

4 あわ文化教育リーダー研修の報告

- 5月 「あわ文化教育リーダー研修」の実施
 - ・「あわ文化テキストブック」検討委員でもある大学教授を講師に迎え，県内全公立中学校「あわ文化教育推進教員」を対象に実施。
「あわ文化教育」を進める意義や目標の体系化，教育課程への位置づけについて講義と演習を実施。
 - ・中学校からの実践報告により，実践例を共有。
- 通年 研修実施後，研修内容と検証結果をホームページにアップし情報を発信。
「あわ文化テキストブック」と「教師用教材解説ワークシート集」をホームページにアップし活用。

(6) その他実施に当たって特筆すべき事項

現在までの取組

あわ文化教育実施校及び対象学年

平成25年度 県立3中学校（1年生）

平成26年度 モデル校25校

県立3中学校（1，2年生），市町村立中学校（1年生）

平成27年度 県内公立中学校85校（1年生）

県立3中学校，モデル校22校（1，2年生）

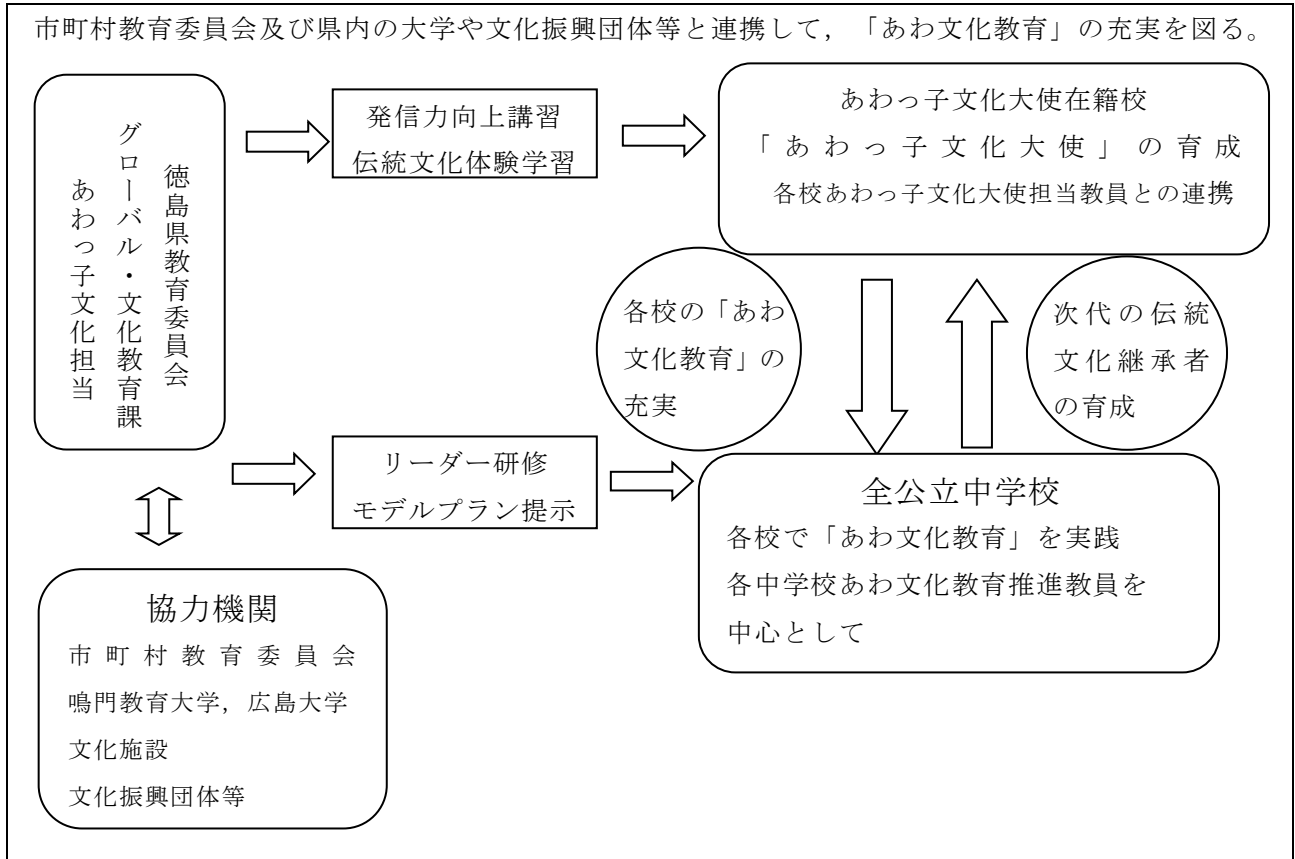
平成28年度 県内公立中学校83校（1，2年生）

平成29年度 県内公立中学校83校（1，2年生）

平成30年度 県内公立中学校82校（1，2年生）

令和元年度 県内公立中学校82校（1，2年生）

3. 実施体制



4. 今後に向けて

「あわっ子文化大使」の活動は、年間を通じて十数回実施され、その様子は、県のホームページで発信する他、新聞や広報誌等でも紹介されており、中学生目線による情報発信に県民の注目も集まっている。

また、これらの活動を通し、実際に体験することによって、魅力ある「あわ文化」を伝承し、発信していくための自分たちの役割について改めて考える機会にもなっている。本年度は「あわっ子文化大使」の1期生が社会人や大学生になっており、中学生・高校生・大学生が集った「あわっ子シンポジウム」では、今後の活動の活性化に向けて、大学生サポーターから様々な意見やアドバイスを得ることができ、活動のポイントについて再認識することができた。

さらに、「あわっ子文化大使」に関しては個々のスキルの向上も見られ、各活動ごとにあわっ子文化大使が作成するレポートは、回を重ねるごとに内容の充実が見られるとともに、ガイド研修や各イベントでの司会等に自信を持って取り組むことができた。今後も継続した取組の必要性が感じられる。

課題としては、在籍校が異なる「あわっ子文化大使」の学校行事と活動日の日程調整、各活動実施のための事前指導が挙げられる。学校行事については、年度当初だけでなく、各活動の計画時に再度、確認が必要である。また、各活動の事前指導については、日々の直接指導ができないため、各学校の「あわっ子文化大使」担当教員と連絡を取りながら進めていった。今後も、各活動実施の際に各学

校の担当教員に協力を得ることが不可欠であり、日頃から連携を密にし、「あわっ子文化大使」の活動への理解を学校全体で深めてもらえるように成果を返していきたい。

各中学校での「あわ文化教育」の実施については「あわ文化教育リーダー研修」で、その目標と位置付けについて、講師より提示された具体的な事例を基に考えていくことで、理解を深めることができた。また、県下各中学校の「あわ文化教育リーダー」の教員で情報共有を行うことにより、地域の実態や各校の教育活動全体を踏まえながらカリキュラムを作成していく必要性について、再認識することができたと感じる。さらに、各中学校でのこれまでの実践や経験を基に活発な話し合いが行われたことにより、今後、授業構想を行っていく上で、非常に参考になったと考えられる。

「あわ文化教育リーダー研修」への参加者は、過去、数回参加している教員もいれば、初めて参加する教員もいるため、それぞれの理解が深まり、充実感を得られるような研修にする工夫が必要になってくる（必須の内容と新しい研修内容のバランスを考える等）。また、各学校のより多様な取組を把握し、研修で実践事例を紹介することにより、各学校が地域や学校の実態に即した取組を進めていく上での参考となる情報提供の場ともしていかなければならない。

(別紙エ)

「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」
完了報告書【実践校】

1. 実践校について (2019年4月1日現在)

学校名	徳島県立城ノ内中学校 (とくしまけんりつじょうのうちゅうがっこう)							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	4	4	3				11	24
生徒数	140	137	116				393	
学校のホームページアドレス	Johnouchi_jhs@mt.tokushima-ec.ed.jp							

学校名	徳島県立川島中学校 (とくしまけんりつかわしまちゅうがっこう)							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	2	2	2				6	15
生徒数	45	59	60				164	
学校のホームページアドレス	kawashima_jhs@mt.tokushima-ec.ed.jp							

学校名	徳島県立富岡東中学校 (とくしまけんりつとみおかひがしちゅうがっこう)							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	2	2	2				6	17
生徒数	80	80	80				240	
学校のホームページアドレス	tomiokahigashi_jhs@mt.tokushima-ec.ed.jp							

学校名	徳島県徳島市城西中学校 (とくしまけんとくしましじょうせいちゅうがっこう)							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	6	6	7				19	44
生徒数	214	204	223				641	
学校のホームページアドレス	josei_jh@tgn.tcn.ne.jp							

学校名	徳島県徳島市南部中学校 (とくしまけんとくしましなんぶちゅうがっこう)							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	7	7	7				21	46
生徒数	206	215	214				635	
学校のホームページアドレス	nannbu_jhs@tgn.tcn.ne.jp							

学校名	徳島県徳島市加茂名中学校 (とくしまけんとくしましかもなちゅうがっこう)							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	6	6	7				19	40
生徒数	137	152	170				459	
学校のホームページアドレス	kamona_jh48@tgn.tcn.ne.jp							

学校名	徳島県徳島市川内中学校（とくしまけんとくしましかわうちちゅうがっこう）							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	5	5	6				16	35
生徒数	135	134	150				419	
学校のホームページアドレス	kawauchi_jh48@tgn.tcn.ne.jp							

学校名	徳島県鳴門市大麻中学校（とくしまけんなるとしおおあさちゅうがっこう）							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	3	3	3				9	20
生徒数	68	69	78				215	
学校のホームページアドレス	ooasa_jhs1@ma.pikara.ne.jp							

学校名	徳島県吉野川市立鴨島第一中学校 （とくしまけんよしのがわしかもしまだいいちちゅうがっこう）							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	5	5	5				15	30
生徒数	137	117	107				361	
学校のホームページアドレス	kamoiti_jhs@yoshinogawa.i-tokushima.jp							

学校名	徳島県阿南市立羽ノ浦中学校（とくしまけんあなんしりつはのうらちゅうがっこう）							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	4	4	6				14	28
生徒数	119	116	150				385	
学校のホームページアドレス	hachu@ca.pikara.ne.jp							

学校名	徳島県東みよし町立市三好中学校 （とくしまけんひがしみよしちょうりつみよしちゅうがっこう）							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	2	3	3				8	16
生徒数	36	43	51				130	
学校のホームページアドレス	miyoshi@h-miyoshi.ed.jp							

学校名	徳島県海陽町立海陽中学校 （とくしまけんかいようちょうりつかいようちゅうがっこう）							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	3	3	3				9	16
生徒数	49	37	45				131	
学校のホームページアドレス	kaiyo-jhs@kaiyo.ed.jp							

学校名	徳島県阿波市立吉野中学校（とくしまけんあわしりつよしのちゅうがっこう）							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	3	2	3				8	17
生徒数	60	38	58				156	
学校のホームページアドレス	yoshino_jhs@awa.ed.jp							

学校名	徳島県松茂町立松茂中学校（とくしまけんまつしげちょうりつまつしげちゅうがっこう）							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	教員数
学級数	5	5	6				16	32
生徒数	127	126	142				395	
学校のホームページアドレス	matsujhs@crocus.ocn.ne.jp							

2. 現状と課題

「あわっ子文化大使」在籍校と連携をとりながら「あわっ子文化大使活躍事業」を実施している。各校では地域や学校の実態に即した「あわ文化教育」が進められており、その成果をそれぞれの大使が活動の中で生かすことができている。しかし、「あわっ子文化大使活躍事業」を実施する際、各活動での参加者が異なるため、事前事後の指導など継続的な指導が行いにくい点が課題である。また、「あわっ子文化大使」の活動について、さらに広報する必要がある。

3. 実施内容

（1）計画の概要

本事業では、次のことを計画・実施した。

- 各中学校で「あわ文化教育」の実施
- 全公立中学校の内、あわっ子文化大使在籍校を実践校として指定
- 「あわっ子文化大使活躍事業」において、各学校での学びを生かして活動
- 「あわっ子文化大使」の活動を広報する場として「あわっ子シンポジウム」を開催
- 「あわ文化検定」の受検
- 新たな「あわっ子文化大使」の認定

（2）具体的な実施内容

- 1 地域や各校の実態に即した「あわ文化教育」の実施
 - 「あわ文化教育テキストブック」を活用した学習の実施
 - ・あわ文化教育の目標と子供たちに必要な力の関連を意識した授業の展開
 - ア 徳島の伝統と文化を知る【知識・理解】
 - イ 世界や日本の中における徳島の伝統と文化について、公正に判断する【思考・判断・表現】
 - ウ 徳島の伝統と文化について基本的な技能を身に付ける【技能】
 - エ 徳島の伝統と文化の魅力を、県内外に主体的に発信できる【関心・意欲・態度】

- ・あわ文化教育の教育課程上の位置付けを意識した授業の展開
 - ア 阿波の歩み【社会科】
 - イ 地域に息づく伝統文化【総合・学級活動】
 - ウ 自然の恵みが生み出す地域の文化【社会科・家庭科・理科】
 - エ 阿波の伝統文化を発信しよう【美術科・英語科・総合】
- ・各校で指導資料の作成

- 2 「あわっ子文化大使活躍事業」において、各学校での学びを生かして活動
- 活動毎に、活動に必要な「あわ文化」に関する情報をレポートにまとめ準備
 - 各活動の際に、自分の経験を他の参加者と共有

- 3 「あわっ子文化大使」の活動を広報する場の設定（あわっ子シンポジウム）
- 県下全公立中学校の教員・生徒に開催と参加の案内

- 4 「あわ文化検定」の受検
- Web 検定の実施

- 5 新たな「あわっ子文化大使」の認定
「あわ文化」に関する作文の提出

(3) 成果の検証

- 1 「あわっ子シンポジウム」，「あわ歴史・文化体験ツアーモニター」の参加者のアンケート結果

① 「あわっ子シンポジウム」参加者の感想や意見（抜粋）

- ・あわっ子文化大使のみなさんが、それぞれ分担と協力をして、発表を作り上げていて、感心しました。今まで、あわっ子文化大使の活動は一部しか知らなかったのですが、とても精力的に活動していて、中高生にとって良い経験になっていると思いました。特に英語のプロモーションビデオをつくる作業は、アウトプットとしても良いし，“発信”にも大きくつながると思いました。
- ・「あわ文化」を知ることの楽しさを感じることができた。中学校・高校生がしっかり自分の考えを人に伝えようとする姿に感動させられた。私たち大人も、しっかり文化を知り、語れ、自分の子どもや後世の人たちに伝え、残していけるようにしなければいけないと思った。

② 「あわ歴史・文化体験モニターツアー」参加者の感想や意見（抜粋）

- ・非常にはきはきと話されていて、聞き取りやすかった。内容も分かりやすく、途中でクイズを取り入れるなど、とても工夫されていて飽きなかった。
- ・中学生が一生懸命に取り組んでいるところが良かった。経験することにより、将来、あらゆる面でプラスになる（案内・プレゼン等）

- ・初めて参加しました。徳島に住んでいるのに藍染めは初めて、土柱は25年ぶり、あわおどり会館も20年ぶりでした。どれも楽しく体験してもらいました。ぜひとも県内外世界に伝えたいです。

アンケート結果からみる成果

シンポジウム・ツアー共に「あわっ子文化大使」や「高校生サポーター」の取組について評価していただいただけでなく、参加者の方が自分自身の「あわ文化」の捉えを再認識し、継承や発信について意識を向けてくれたことが大きな成果であった。

2 「あわ文化検定」の受検率の推移

	中学校数	受検校数	受検率	生徒数	受検者数	受検率
平成25年度	86校	3校	—	13,296人	257人	1.9%
平成26年度	85校	13校	—	13,251人	612人	4.6%
平成27年度	85校	34校	40.0%	12,860人	958人	7.4%
平成28年度	83校	46校	55.4%	12,378人	710人	5.7%
平成29年度	83校	43校	51.8%	12,069人	882人	7.3%
平成30年度	82校	36校	43.9%	11,591人	987人	8.5%
令和元年度	82校	38校	46.3%	11,389人	784人	6.9%

検定実施状況について

本年度は、初めて「あわ文化検定」に参加した学校が4校増加したものの、学校の行事等の関係により昨年度までの参加校で、本年度参加できなかった学校があったため、全体としては、学校の受検率に大きな変化は見られなかった。また、昨年、一昨年と伸びていた生徒の受検者数が本年度減少しており、今後の課題である。

3 「あわっ子文化大使活躍事業」や「Beyond the あわっ子文化大使事業」に参加した「あわっ子文化大使」や「あわっ子文化大使サポーター」の感想

① 「あわっ子シンポジウム」の感想（抜粋）

（あわっ子文化大使）

- ・「あわっ子文化大使」での経験を生かして、今後関わっていく人たちに「あわ文化」を広めていきたい。写真や動画などを活用して、みんなに伝えていきたいと思った。
- ・交流を広げて、県外の方々に徳島の良いところやおすすめスポットを紹介できるように知識はもちろんのこと、体験を積み重ねていきたい。
- ・私の学校は、様々な所の出身の子がいるので、県内各地の情報を得て「あわっ子文化大使」の活動を深めたい。

（高校生サポーター）

- ・今回来ていただいた先輩サポーターのように、現役のあわっ子文化大使のサポートはもちろんだが、自主的に「あわ文化」を伝える機会を探し、「あわ文化」とは何か、それを伝えるには、どのような手段が有効かを考え続けることが大切だと感じた。

②「あわ歴史・文化体験モニターツアー」の感想（抜粋）

（あわっ子文化大使）

- ・みなさんの顔を見ながら、できるだけ前を向いてガイドをした。クイズは、楽しむことができるよう、分かりやすく伝えるために工夫した。
- ・「あわっ子文化大使」として「あわ文化」を学ぶことができてとても楽しかった。他の学校の大使とも交流がもてて嬉しかった。これからも、「あわ文化」を学べる機会にぜひ参加したい。

（高校生サポーター）

- ・声量には個人差があると思うので、マイクを上手に使うことでバスの後ろまで声が聞こえていたので良かった。また、参加者を引き込むため、しっかりとガイドもできていたのも良かった。

感想からみる成果

「あわっ子文化大使」として学ぶことに意義を感じ、自分が「あわ文化」の魅力を伝えることにも意欲的に取り組むことができている。また、在籍校や出身地が異なる「あわっ子文化大使」同士が交流し情報交換を行う場としても各活動が有効であると考えている。

「高校生サポーター」にとっては、各活動が中学生のサポーターという立場と共に、自分自身が今後、どのような活動を展開し、どのような役割を担っていくかについて、深く考える場ともなっている。

（４）実施スケジュール

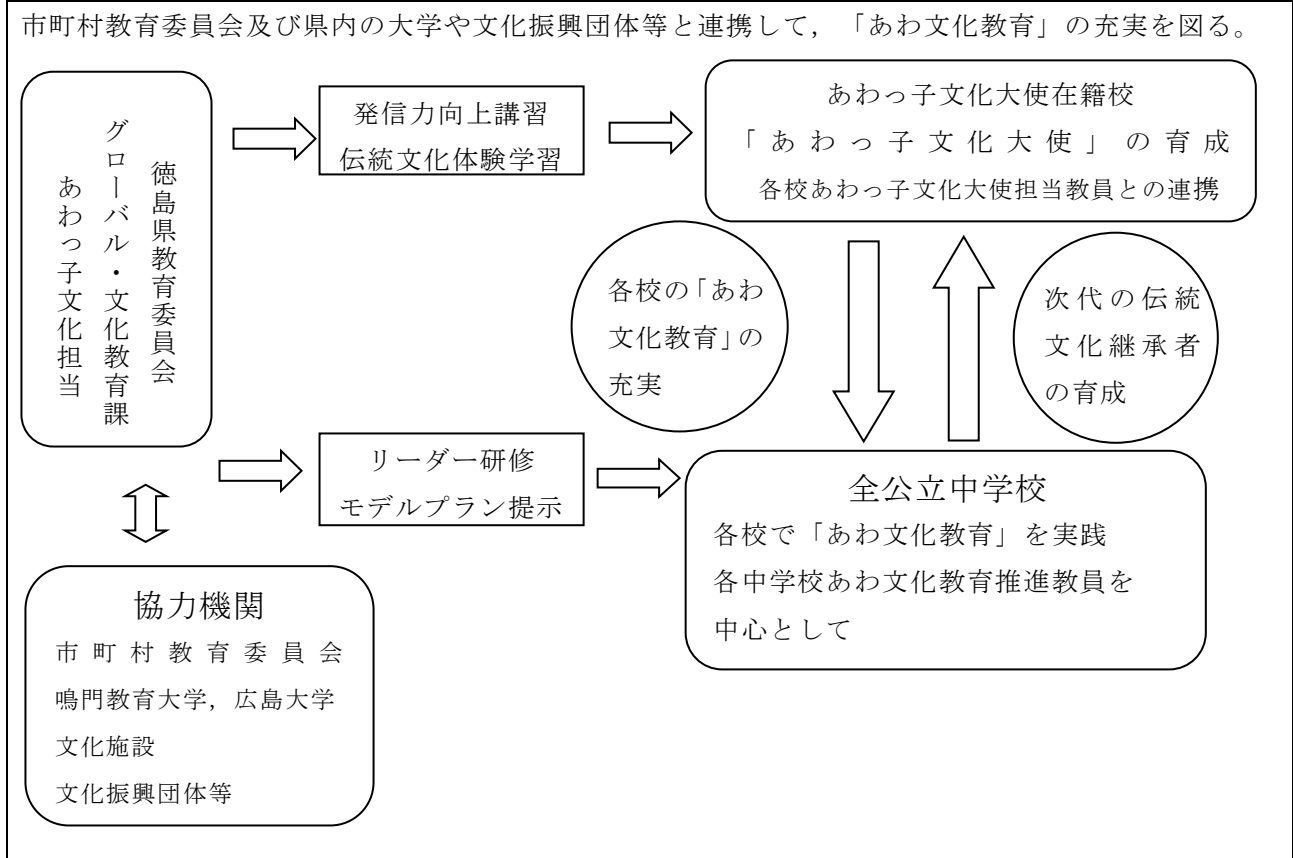
契約開始日以降

- 通年 各中学校で「あわ文化教育」の実施
- 7月 シンポジウム資料作成，ツアーコース決定
- 7月 アナウンス研修，検証ツアーの実施と修正
- 8月 シンポジウムの実施
- 9月 モニターツアー実施の際の事前打ち合わせ（2回）
- 10月 モニターツアーの実施
- 10月 検定要項送付，検定受検及び「あわっ子文化大使」希望者募集
- 12月 広報動画の完成
- 1月 「あわ文化検定」の実施
- 2月 「あわ文化検定」の検定結果，「あわっ子文化大使」の認定結果の通知
- 3月 「あわっ子文化大使」認定証授与式の開催
- 県広報誌「OUR 徳島」原稿（私のまちの文化）の作成

（５）その他実施に当たって特筆すべき事項

特になし

4. 実施体制



5. 今後に向けて

「あわ文化教育」の実施については、教員研修等で、その具体的な実践例を示すことにより県下全公立中学校での定着が図られつつあるが、さらにその学びを生かして活動する「あわっ子文化大使」は在籍校に偏りが見られる。より多くの情報を収集し、情報を発信していくためには、「あわっ子文化大使」が在籍する中学校を増やしていくという課題がある。そのためには、現在の「あわっ子文化大使」の活動をしっかりと広報し、各学校の理解を得ると共に、中学生が「あわっ子文化大使」に興味を持ち、魅力を感じることができる活動としていくことが不可欠である。

今後も様々な広報の場を活用し、「あわ文化教育」のさらなる普及と「あわっ子文化大使」の拡充を図っていく。